

中島総長の学生のために教員を育てたいという気持ちがあふれている授業だった。総長がおしゃっていた、目的によって勉強の仕方が異なること、特に、試験に関係ないことは合格後に自由に勉強すればよいというのはその通りだと思った。

先週の論述対策の意図について、基となるものを暗記して、試験会場では思い出しながらオリジナルのものを書くというお話があったが、典型的な論述問題のテーマでは非常に有効だと改めて感じた。

お話の中で養護教諭の合格者の話が出ていましたが、採用試験が難関（養護教諭は原則各学校に1名しか配置されないため）の試験に合格者を出している東福大はすごいと感じた。あと、併修の提携先の大学から卒業しすぎるといった話があったということもお話の中にもありましたが、20年以上前の大学通信教育の状況を考えると、高卒で入学して全員が卒業にたどり着くのは、すごいことだと思った。

今回の授業内容は、択一式試験の対策だったが、問題を読み、一つずつ選択肢と解説を読んで暗記し、1つの問題が終わったら、時間を取って、全体をもう一度暗記する。というプロセスを繰り返していた。最後に、本日の問題を再度、解きなおして全員ができていることを確認していた。中島総長は、家に帰ってから、翌朝に見直すなどして何度も繰り返し暗記しなおすことが大事だとおしゃっていた。過去にいろいろな資格試験を受けた経験からは、過去問を3周すれば、結構、暗記ができているので、私の経験から総長のおしゃったことは、その通りだと思った。

中島総長は、最後に、生徒を学ばせる、生徒を疲れさせる、先生が疲れる授業はダメだとおしゃっていた。今まで、このような視点がなかったので、非常に斬新な発想だと感じた。択一式の試験対策は暗記中心になるので、生徒が勉強して疲れることが重要であるというのは、その通りだと思った。